



おたまじやくし

おたまじやくしは春から夏にかけて、水田、池、沼などに群がっています。

おたまじやくしの親であるカエルは春、水中に長いひも状の寒天質の膜に保護された卵を生みます。

幼生は半月ほどで皮膚の外に出ます。そして、尾を振って泳ぎ、水草などを食べます。その後、足、手の順に生えて尾がなくなり、陸に上がって呼吸もエラの代わりに肺ができ、水呼吸から空気呼吸に変わります。食べる物も昆虫など、小動物に変わります。

短い間にこんなに変貌へんぼうを遂げていくところに、改めて生物の不思議さを感じます。

ところで、俳句ではおたまじやくしを蝌蚪くわとと表現することもあります。蝌蚪とは大昔の中国の字体で、それが何となくおたまじやくしに似ているので、日本の俳人が使うようになったといわれています。

※くわと……旧仮名づかい